



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView 5.2 および 5.20.01 リリースノート

摘要

本書では、HPE OneView 5.2 および 5.20.01 の新機能および既知の制限事項について説明します。このリリースは、HPE OneView の仮想アプライアンスを使用して HPE ProLiant サーバー、HPE Virtual Connect、およびストレージシステムの構成、管理、およびトラブルシューティングを行う管理者を対象としています。

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Intel[®]、インテル、Itanium[®]、Optane[™]、Pentium[®]、Xeon[®]、Intel Inside[®]および Intel Inside ロゴは、インテルコーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft[®]および Windows[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Adobe[®]および Acrobat[®]は、米国 Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

Java[®]および Oracle[®]は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

UNIX[®]は、The Open Group の登録商標です。

すべてのサードパーティのマークは、それぞれの所有者に帰属します。



目次

HPE OneView 5.2 および 5.20.01 のリリース情報.....	5
はじめに.....	5
重要なお知らせ - 5.2 および 5.20.01.....	5
HPE OneView 5.2 および 5.20.01 仮想アプライアンスで提供される主な変更点.....	5
HPE OneView 5.2 および 5.20.01 の主な新機能.....	8
アプライアンスのインストールとアップデート時間.....	12
アップデート後のアプライアンスのバックアップ.....	13
問題と推奨処置.....	14
データベースで使用できるにもかかわらず、ストレージシステムのインデックス関連付け が見つからない.....	14
ファームウェアがベースラインにアップデートされたにもかかわらず、HPE OneView サー バープロファイルにベースライン不整合の警告メッセージが表示される.....	14
未割り当てのサーバープロファイルを再割り当てするときに、サーバープロファイルへの 変更がサーバーに適用されない場合がある.....	14
HPE Superdome Flex が IPv6 アドレスを使用して管理されている場合の制限.....	15
HPE Superdome Flex サーバーのマップビューの制限.....	15
Internet Explorer のコンテキスト依存ヘルプの制限.....	15
カスタマイズされた帯域幅構成が論理インターコネクト GUI に表示されない.....	15
ブラウザーに HPE OneView インターフェイスが表示されない.....	16
HPE OneView 経由でカスタム SPP を作成することで、ファームウェアのホットフィック スをアップデートできない.....	16
ネットワークアダプターポートインベントリのスロット値が不明である.....	16
HPE OneView で、論理エンクロージャーのファームウェアアップデート中に警告が表示さ れる.....	16
HPE OneView でサーバープロファイルを正常に削除できない.....	17
サーバープロファイルから HPE Superdome Flex サーバーに BIOS 設定を適用する際に PXE サーバーアドレスが欠落している場合、URL からの起動オプションが無視される.....	17
HPE OneView の接続のコンプライアンス確認が正しくない.....	17
HPE iLO の Active Health System が、HPE OneView によって管理されるサーバーハード ウェアの変更を記録できない.....	17
iLO の CNSA モードの制限事項.....	18
英語以外のディレクトリサーバーのグループ名が一部のブラウザーで表示されない.....	18
iLO 5 の HPE OneView SNMP 構成に関する問題.....	18
HPE OneView の Web サーバー証明書をアップデートできない.....	18
スキャンツールによって脆弱な SSH 暗号の問題が報告される.....	19
ハイパーバイザークラスタープロファイルの制限事項.....	19
ESXi FCoE Boot from SAN.....	19
HPE OneView 5.2 および 5.20.01 に関する注意事項.....	21
HPE OneView のドキュメントおよびトラブルシューティングの資料	
.....	25
HPE OneView ユーザーガイド.....	25
HPE OneView サポートマトリックス.....	25
HPE OneView のトラブルシューティングガイド.....	25

HPE OneView ヘルプと HPE OneView API リファレンス.....	25
Web サイト.....	26
HPE OneView Remote Technician.....	28
サポートと他のリソース.....	29
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	29
アップデートへのアクセス.....	29
リモートサポート（HPE 通報サービス）.....	30
保証情報.....	30
規定に関する情報.....	30
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	31



HPE OneView 5.2 および 5.20.01 のリリース情報

はじめに

本文書では、HPE OneView 5.0 および 5.20.01 のリリース情報を提供します。

対象読者	関連情報
すべてのユーザー	<ul style="list-style-type: none">・ 主要な新機能・ 関連製品および技術ドキュメントの見つけかたに関する サポートと他のリソース
新しいアプライアンスをインストールするか、以前の HPE OneView バージョンからアップデートするユーザー。	<ul style="list-style-type: none">・ アプライアンスのインストールとアップデート時間・ HPE OneView 5.0 および 5.20.01 を使用するための 問題とその対策

HPE OneView の詳細については、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) を参照してください。

HPE OneView の以前のバージョンやアップグレードパスについて詳しくは、[HPE OneView ライフサイクルページ](#)を参照してください。

❗ **重要:** この製品には、リリースされていない製品または機能への参照が含まれる場合があります。Hewlett Packard Enterprise は、そのような製品または機能を商業的にリリースまたはサポートしない権利を留保します。

重要なお知らせ - 5.2 および 5.20.01

Hewlett Packard Enterprise は、5.2 リリース以降、HPE OneView が Cisco Nexus/FEX 統合をサポートしなくなったことを発表しました。Hewlett Packard Enterprise は、SKU P9V06A および P9V06AAE による HPE OneView Nexus/FEX 統合のサポートを段階的に廃止します。

HPE OneView 5.2 および 5.20.01 仮想アプライアンスで提供される主な変更点

HPE OneView 5.20.01 で提供される変更点

アプライアンスへの初回インストールが 3.00.08 以前のバージョンだった場合に、HPE OneView 5.0 から 5.2 へのアップグレードが 30%で失敗する問題を解決します。

HPE OneView 5.2 で提供される変更点

- ・ ネットワークをネットワークセットに追加し直すと、誤解を招くアップリンクエラーメッセージが返される問題を解決します。アップリンクセットを変更せずに、ネットワークをネットワークセットに追加し直すことができる必要があります。この問題は、アクティブ/アクティブアップリンク構成を使

用しているときに発生します。新しい VLAN ネットワークは、アクティブ/アクティブ構成に必要な 2 つのアップリンクセットの 1 つにのみ追加できます。

- ・ hprof ファイルが大量のメモリを占有しているために、作成されたサポートダンプで /ci/logs 情報が報告されなかった問題を解決します。
- ・ HPE OneView のバージョン 5.00.02 へのアップグレードが 10%の進行中に失敗し、update.log ファイルに理由を示さない問題を解決します。
- ・ VLAN を論理インターコネクトグループに追加した後、グループからアップデートのアクションで新しい構成が統合されない場合、HPE OneView がアラートをログに記録する問題を解決します。
- ・ SAN ゾーニングポリシーをシングルイニシエーター/すべてのターゲットポリシーからシングルイニシエーター/シングルターゲットに変更し、SAN の変更が発生するたびに多数の登録状態変更通知 (Registered State Change Notifications、RSCN) が生成されないようにするために問題を解決します。
- ・ HPE OneView アプライアンスの再起動後のエンクロージャーの更新が正常に完了しない問題を解決します。
- ・ 有効な IP アドレスを持たないがスタンバイ OA で IP モードが有効になっているスタンバイ Onboard Administrator (OA) のアラートが HPE OneView で抑制される問題を解決します。
- ・ 論理インターコネクトグループを編集して保存しようとする、内部エラーメッセージが表示されることがある問題を解決します。
- ・ ファームウェアコンプライアンスダッシュボードが準拠しているにもかかわらず、サーバーが非準拠として表示されることがある問題を解決します。
- ・ HPE OneView でエンクロージャーを削除した後、孤立した論理インターコネクトまたは孤立したインターコネクトが HPE OneView ユーザーインターフェイスに表示されない問題を解決します。
- ・ HPE BladeSystem c7000 エンクロージャーのサーバーブレードにプロファイルを割り当てようとすると、サーバープロファイルを作成できないというエラーメッセージが表示される問題を解決します。
- ・ HPE OneView 4.10 から HPE OneView 5.20 にアップグレードした後、リブート後も HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュールがメンテナンス状態のままになる問題を解決します。
- ・ HPE OneView で 1.40 より前の iLO5 ファームウェアバージョンをバージョン 2.xx 以降に正常にアップデートできないという問題を解決します。この問題は [カスタマーアドバイザリ](#) で文書化されています。
- ・ UI 関連の問題が原因で HPE OneView でサーバープロファイルテンプレートを編集できない問題を解決します。
- ・ サーバープロファイル上のストレージボリュームアタッチメントが 128 を超えると、プロファイルの作成またはアップデートが説明なく失敗する問題を解決します。タスク失敗メッセージを改善して、サーバープロファイルでサポートされるボリュームアタッチメントの最大数を示します。
- ・ 論理ドライブで書き込みキャッシュを有効にすると、論理エンクロージャーのファームウェアのアップグレードが失敗する問題を解決します。
- ・ HPE OneView 4.1 以降で SAN マネージャーへのアクセスが失敗し、最初に HPE OneView 3.x に追加された SAN マネージャーの認証情報が変更される問題を解決します。
- ・ ハードゾーンで SAN を更新するときの HPE OneView のメッセージを改善します。
- ・ ファームウェアのアップグレードが正常に完了した後、インターコネクトページに 2020.01 ではなく誤った SPP バージョン 2019.09 が表示される問題を解決します。
- ・ ファームウェアベースラインを含むサーバープロファイルを HPE Gen10 サーバーに実際に適用したときに、ファームウェアがアップデートされなかったことをサーバープロファイルが示す可能性がある問題を解決します。HPE OneView に次のメッセージが表示されます。

ファームウェアアップデート操作で、1つ以上のコンポーネントをアップデートできませんでした。ファームウェアベースラインを再度適用して、展開操作を再度実行してください。問題が続く場合は、認定サポート担当者に連絡し、サポートダンプを提供してください。

- ・ HPE OneView のテンプレートからアップデートダイアログボックスのエラーの表示を改善します。
- ・ HPE OneView のファームウェアレポジトリに新しいリリースの Service Pack for ProLiant が存在する場合、BIOS 設定またはローカルストレージ設定を含むサーバープロファイルを適用すると失敗する可能性があるという問題を解決します。この問題は **カスタマーアドバイザリ** で文書化されています。
- ・ アプライアンスの SUM のバージョンが古いことが原因でファームウェアアップデートが失敗する問題を解決します。
- ・ 複数の電源装置が停電した場合でも、最初の電源装置アラートしか HPE OneView に表示されない問題を解決します。複数の電源装置が停電した場合、HPE OneView ではすべてのアラートがログに記録される必要があります。
- ・ HPE VC FlexFabric 10Gb / 24-Port 571956-B21 インターコネクトモジュールを使用しているシステムに関する例外が ciDebug ログに大量に書き込まれる問題を解決します。大量のログが原因で、またファイルが途中でロールオーバーするため、ユーザーはトラブルシューティングする実際の問題を特定できません。
- ・ **カスタマーアドバイザリ** で説明されているように、サーバープロファイルを参照するときにデータテーブルの警告が表示される場合がある問題を解決します。
- ・ SAN テーブルの情報が重複すると、SAN マネージャーの更新が正常に完了しない問題を解決します。
- ・ 複数のボリュームを更新した後でも、サーバープロファイルの SAN ボリュームアタッチメントに関する予期しないエラーがクリアされないという問題を解決します。
- ・ サーバーを取り外して再度挿入した後、自動ターゲットポートが定義されている SAN からサーバーが正常に起動しない問題を解決します。
- ・ iLO にシングルサインオンするときに、次の HPE OneView の役割がオペレーターの役割に正しくマップされない問題を解決します。
 - サーバーファームウェアオペレーター
 - サーバープロファイル設計者
 - サーバープロファイル管理者
 - サーバープロファイルオペレーター
- ・ HPE OneView でサーバープロファイルテンプレートを削除しようとする、ハイパーバイザークラスタープロファイルが編集できない状態のままになる問題を解決します。
- ・ HPE OneView をバージョン 4.0 以降にアップグレードする際、GET および DELETE API 呼び出しでエンドポイント /rest/global-settings で適切な http ステータスコードが返されない問題を解決します。
- ・ SAN ストレージターゲットを手動でロードバランシングしているときに、サーバープロファイルテンプレートモードがサーバープロファイルについて最小一致として設定されている場合、ターゲットポートの整合性に関するコンプライアンスアラートが HPE OneView で表示される問題を解決します。
- ・ HPE OneView が Active Directory 組織ユニットの特殊文字を処理できないため、ドメインユーザーが HPE OneView にログインできない問題を解決します。
- ・ サーバーのメトリック容量値が、HPE OneView の電力使用率の計算に影響を与える最大割り当て電力よりも小さい問題を解決します。

- ・ HPE OneView のコンプライアンスダッシュボードに、現在アプライアンスで利用できないリソースの古いデータが表示される問題を解決します。
- ・ HPE OneView で同時に複数のアラートが生成されると、通知メールが失われるか遅延する問題を解決します。

HPE OneView 5.2 および 5.20.01 の主な新機能

アプライアンス

- ・ **アップデートの信頼性の向上**

整合性と信頼性を維持するためにデータベースのアップデートの堅牢性を改善しました。

- ・ **アップデート時間の短縮**

仮想アプライアンスで HPE OneView 5.2 にアップデートすると、HPE OneView 5.0 にアップデートする場合と比較して、アップデート時間が最大 40%短縮されます。HPE OneView 5.0 からアップデートすることで、最速のアップデート時間を実現します。

注記: アップデート時間の短縮率は、内部テストに基づいています。

- ・ **HPE OneView Update Readiness Checker**

HPE OneView Update Readiness Checker は、アップデートに進む前に、一連の既知の条件について HPE OneView アプライアンスの正常性を評価するために使用できます。

このチェッカーをダウンロードするには、<https://www.hpe.com/support/ov-urc> にアクセスしてください。

詳細については、HPE OneView 5.2 ユーザーガイドと、ダウンロードに含まれる README ファイルを参照してください。

- ・ **サーバープロファイルテンプレートで LAG 設定のサーバープロファイルの整合性の追跡を有効にする**

この機能は、プロファイルテンプレートの整合性確認を拡張して、サーバープロファイルテンプレートとそれに関連付けられたサーバープロファイルの間の LAG 設定の違いを検出します。サーバー管理者は、違いを解決し、サーバープロファイルの設定をサーバープロファイルテンプレートの設定に合わせることができます。

ファームウェアのアップデート

Gen9 サーバーのファームウェアコンプライアンスダッシュボードのサポート

HPE Gen9 サーバーへのコンプライアンスダッシュボードのサポートを拡張しました。この機能により、すべての Gen9 および Gen10 サーバーのファームウェアコンプライアンスと、HPE BladeSystem およびの共有インフラストラクチャを管理できます。新しい SPP をアプライアンスに追加すると、HPE OneView は、インストールされている管理対象ハードウェアのファームウェアバージョンを、追加された SPP の新しいコンポーネントバージョンと比較し、コンプライアンスレポートを生成します。さらに、この機能により、フィルターを適用し、Excel および csv 形式にレポートをエクスポートできます。

サポートのエクスペリエンス

- ・ **HPE OneView メンテナンスモード - メール通知**

サーバー管理者またはインフラストラクチャ管理者がシステムメンテナンス中にサーバーをメンテナンスモードにできる機能を導入しました。

メンテナンスモードのサーバーの場合：

- すべてのメール通知が抑制される
- Remote Support のデータ収集が一時中止される
- Remote Support サービスイベントが送信されない

上記は、そのサーバーのメンテナンスモードを手動で無効にするまで有効のままです。抑制された通知は、メンテナンスモードを終了すると送信されません。

・ **カスタマーが実施可能なイベント**

このリリース以降、HPE OneView にユーザーからの修正アクションを必要とするサービスアラートが追加されます。これは、サービスアラート（Remote Support アラート）に加えて、HPE データセンターでケースを作成するイベント用です。たとえば、ユーザーにとって関心のあるシステムメンテナンスに関連する新しいサービスアラートがありますが、HPE サポート契約の対象ではありません。

・ **サーバーのクリティカルな障害**

HPE OneView が iLO サーバーのクリティカルな障害イベントを認識し、HPE データセンターでケースを作成する HPE Remote Support 機能を改善しました。このイベントタイプは iLO に存在しましたが、HPE Remote Support ではキャプチャーおよび報告されませんでした。

・ **カスタムデリバリ ID**

HPE OneView は、HPE データセンターに代替ケースルーティング機能を提供し、作成されたケースを正しいソリューションチームにルーティングできるようにします。個別のシステムについて、またはグローバル値としてカスタムデリバリ ID 値を構成して、そのユーザーのケースが正しいキューに確実にルーティングすることができます。

・ **選択可能なサイズのサポートダンプ**

HPE OneView では、HPE サポート担当者からの指示に従って、アプライアンスサポートダンプの適切なログファイルを選択できます。ファイルを選択するオプションにより、ファイルサイズが小さくなり、転送が容易になります。

インフラストラクチャのプロビジョニング管理エクスペリエンス

・ **稼働状態モニターからの iLO ログエントリの削減**

HPE OneView のログインおよびログアウトの頻度を最小限に抑えることで、重要な iLO ログ情報の履歴をより長く残すことができます。

・ **ストレージプールの予約済み容量値のレポート機能の追加**

この機能を使用すると、予約済み容量の値を仮想アレイストレージプールの値に追加することができます。HPE 3PAR、Primera、および Nimble ストレージシステムのストレージ管理者は、プールごとの予約済み容量比（SubscribedCapacity/TotalCapacity の値）を計算することができます。ストレージ管理者は、ストレージプールの容量に応じて新しいボリュームを配置できます。

・ **Nimble 5.1 サポート - iSCSI Group Scoped Target**

この機能を使用すると、HPE OneView は Nimble ストレージアレイを管理してバージョン 5.1 にアップグレードできます。アップグレード後、新しいデフォルトのアドレス指定、Group Scoped Target (GST) を使用した iSCSI ボリュームアタッチメントの構成などの機能を使用できます。

・ **マルチノード/カプレットへの SAN ストレージパスのロードバランシング - 3PAR、HPE Primera、Nimble**

この機能を使用すると、ノードおよびカプレット間での SAN ボリュームアタッチメントの構成パスのロードバランシングを実行できます。ロードバランシングは、HPE Primera、3PAR、および Nimble アレイコントローラーに対して行われ、パスのフォールトトレラントな自動構成を実現します。SAN ストレージ（ブートとデータ）を備えた単一のサーバープロファイルテンプレートからサーバープロファイルを作成して割り当てると、ボリュームアタッチメントのパス構成は、SAN リソース全体で自

動的にロードバランシングを行います。異なる SAN 上の同じポートグループに割り当てられているポートは、サーバープロファイルと一緒に割り当てられます。

OneView からのみハイパーバイザークラスタープロファイルを削除

この機能では、ハイパーバイザークラスタープロファイルを使用して、クラスターの管理を停止できます。ハイパーバイザークラスタープロファイルと関連するハイパーバイザープロファイルを HPE OneView から削除できます。HPE OneView の関連するサーバープロファイルは変更されません。この操作により、クラスターで実行されているワークロードが中断されることはなく、ハイパーバイザークラスターはハイパーバイザーマネージャーにそのまま残ります。

HPE OneView 管理対象サーバーに適用される機能

ファームウェア

・ 並列ファームウェアアップデートパフォーマンスの改善

この機能は、複数の類似した Gen10 サーバーがアップデートされている場合のインストール時間を改善するための論理エンクロージャーファームウェアアップデートを対象としています。

・ サーバープロファイルでのファームウェア操作の再適用 - Gen8 および Gen9

この機能を使用すると、HPE OneView は、Gen8 および Gen9 サーバーのサーバープロファイルで再適用オプションが選択されたときに、ファームウェアをアップデートできます。以前のリリースでは、再適用オプションが選択されている場合、HPE OneView はファームウェアアップデートをスキップしました。

・ ファームウェアアップデートの堅牢性と柔軟性の改善

この機能により、Gen10 以降のサーバーでのファームウェアアップデートの柔軟性が向上します。この拡張機能により、HPE OneView は自動的にアップデートを再実行して、最初のインストール試行中にドライバー依存関係の障害が発生したファームウェアコンポーネントをインストールします。

以前は、ドライバーコンポーネントが新しいファームウェアと互換性がない場合、HPE OneView は新しいドライバーに依存するファームウェアコンポーネントを適用できませんでした。このアップデートでは、HPE OneView は最初の試行に必要な新しいドライバーをインストールし、次にアップデートを再実行して、最初の実行ではインストールできなかったファームウェアをインストールします。この機能は、最初の実行時の一時的なエラーが原因で失敗した可能性のあるコンポーネントも再試行します。

・ カスタマーアドバイザリで説明されているように、ホットフィックスを追加するときに 2 部の `compsig` ファイルを HPE OneView にアップロードできるようにする拡張機能。

サーバー

・ iLO 4 サーバーのインベントリの強化

この機能により、デバイス、メモリ、ディスクコントローラー、およびディスクドライブが Gen8 および Gen9 サーバーの HPE OneView インベントリに追加されます。インベントリ情報は、API または UI を介して利用でき、インベントリされた各デバイスに関する詳細情報が含まれています。この機能は、以前は iLO 5 サーバーでのみ利用可能でした。

・ Gen10 ラックサーバーの NIC インベントリとポートマッピング

管理対象ラックサーバーのネットワークアダプターインベントリ情報の収集をサポートします。この情報は、サーバーハードウェアポート画面と HPE OneView API に表示されます。提供されるインベントリ情報には、スロット、製品名、および MAC アドレスや WWN などの各ポートの情報が含まれます。この情報は、iLO 5 v1.20 以降のファームウェアを搭載した Gen10 以降のサーバーでのみ利用できます。

・ UI および API に表示される iLO ライセンスタイプ

現在 iLO にインストールされているライセンスタイプが、サーバーハードウェアの詳細画面と HPE OneView API に表示されます。ライセンスフィールドは、iLO Advanced のようなプレーンテキストを使用するか、キーワード `mpLicenseType` を使用してサーバーハードウェアでも検索できます。たとえば、ライセンスのないすべての iLO を検索するには、サーバーハードウェア画面に移動して、検索フィールドに `mpLicenseType:` と入力します。

- ・ **ユーザーインターフェイスおよび API を使用したサーバーで実行されている OS の表示**

HPE OneView で、サーバーハードウェアの詳細画面で、および HPE OneView API を使用して、サーバーオペレーティングシステム名とバージョンを表示できるようになりました。

OS フィールドは、Windows のようなプレーンテキストを使用するか、キーワード `operatingSystem` を使用してサーバーハードウェア画面でも検索できます。たとえば、RHEL 7.3 を実行しているすべてのサーバーを検索するには、サーバーハードウェア画面に移動して、検索フィールドに `operatingSystem:"Red Hat Enterprise Linux Server 7.3"` と入力します。この機能は、Agentless Management Service (AMS) がインストールされている OS を実行している Gen10 以降のサーバーでのみ使用できることに注意してください。

- ・ **API 経由の SSD ウェアレベル - Gen 10 サーバー**

ソリッドステートディスクのウェアレベルに関する情報は、OneView REST API を介して、サーバーハードウェアストレージインベントリのサブリソースの下にあるディスクドライブインベントリデータの一部として利用できるようになりました。この情報は、Gen10 以降のサーバーでのみ利用できません。

ストレージ

HPE Primera のサポート

HPE OneView は、Primera ストレージシステムの自動プロビジョニングをサポートするようになりました。HPE OneView ユーザーは、サーバー、接続、SAN ゾーニング、Primera ストレージブートまたはデータボリュームのプロビジョニングを自動化できます。HPE OneView は、サーバープロファイルテンプレートとサーバープロファイルから、Primera SAN ベースのストレージに自動化されたプールベースのプロビジョニングを提供します。

HPE OneView は、従来の FC SAN または HPE Flat SAN ベースの展開もサポートしています。ポリシーベースの SAN ストレージプロビジョニングを使用すると、ユーザーはネットワークストレージのプロビジョニング時間を大幅に削減し、手動による構成エラーを回避できます。HPE OneView は、Primera、StoreServ、および Nimble ストレージシステムに一貫した自動ストレージプロビジョニングエクスペリエンスを提供します。

セキュリティとアプライアンス

- ・ **証明書失効リストの自動取得**

HPE OneView は、証明書の失効チェックを保証する証明書失効リスト (CRL) を自動的に取得するようになりました。これにより、CRL を HPE OneView アプライアンスに手動でアップロードするプロセスが不要になります。これは、**設定タブのセキュリティセクション**の GUI で簡単に有効または無効にできます。

- ・ **GUI の制限付きスコープフィルタリング**

GUI の制限付きスコープフィルタリングにより、HPE OneView 管理者は、アプライアンスで管理されるリソースのサブセットへのさまざまなユーザーによるアクセスを制限できます。これは、IT 運用担当者またはサービスプロバイダーアカウントがアクセスする権限を持つリソースのみにビューを制限または分割する必要がある IT 運用チームおよびサービスプロバイダーにメリットがあります。この制限付きアクセスは、HPE OneView GUI によって適用され、REST API では適用されません。

- ・ **WCAG - 色とコントラスト**

この機能強化により、中程度の低視力のユーザー向けに、テキストとその背景とのコントラストが強調されます。また、色のコントラストも強調されるため、情報の読みやすさとアクセス性が改善し、

視覚障害のあるユーザーにも使いやすくなっています。この機能は、Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0 のセクション 1.4.3 に準拠しています。

Superdome Flex サーバー管理

・ セキュアブートのプロファイルサポート

この機能は、HPE OneView のサーバープロファイルを介して Superdome Flex サーバーのセキュアブート設定を制御するためのサポートを提供します。サーバープロファイルからセキュアブートを有効または無効にできます。

・ サーバーの適切なシャットダウン

この機能には、電源をオフにしたときに Superdome Flex サーバーを正常にシャットダウンするオプションが追加されています。以前は、強制シャットダウンしか利用できませんでした。

・ ラック管理コントローラー (RMC) が別の管理システムに強制的に追加されたときの通知

この機能により、2 番目の HPE OneView アプライアンスが最初のアプライアンスによって管理されていた Superdome Flex RMC の所有権を取得したときの HPE OneView アプライアンスの応答が変更されます。最初の HPE OneView アプライアンスは、アプライアンスが Flex RMC を管理していないというアラートを生成します。

・ ラック管理コントローラー (RMC) ステータス監視アラートとイベントサブスクリプション監視

この機能は、定期的にラック管理コントローラー (RMC) の接続状況を監視し、RMC がダウンしているか到達できない場合にアラートを生成します。

さらに、この機能は RMC のヘルスイベントサブスクリプションステータスも監視し、すべての問題を自動的に修正します。問題の修正に失敗すると、HPE OneView はアラートを生成します。

サブスクリプション監視に加えて、RMC から 24 時間ヘルスイベントが送信されてこない場合、HPE OneView はテストイベントで応答するよう RMC に要求します。RMC からテストイベントが送信されてこない場合、HPE OneView はアラートを生成します。

・ ラックマネージャーページからの RMC Web インターフェイスの起動

この機能は、ラックマネージャーページのマネージャーセクションからラック管理コントローラー (RMC) の Web インターフェイスを起動するハイパーリンクを提供します。

・ IPv6 のサポート

この機能により、デュアルスタック (IPv4 および IPv6) および IPv6 専用アプライアンスによる IPv6 アドレスを使用した Superdome Flex サーバーの管理が可能になります。

・ HPE OneView UI からのラック管理コントローラー (RMC) のリセット

この機能には、HPE OneView GUI からラック管理コントローラー (RMC) をリセットするオプションが追加されています。

アプライアンスのインストールとアップデート時間

インストールファイルまたはアップデートイメージをダウンロードするには、ソフトウェアセンター (<https://www.hpe.com/software/hpesoftwarecenter>) にアクセスしてください。

このアップデートには、1 回以上のアプライアンスの再起動が必要です。再起動を含むアップデートの完了に必要な時間は、HPE OneView 5.0 からのアップデートの場合は約 1 時間、HPE OneView 4.2 からのアップデートの場合は約 1.5 時間です。

HPE OneView 4.2 からのアップデート中、ブラウザーにはプロセスの完了率を示す進行状況バーが表示されます。進行状況バーが 30% を表示すると、アップデートプロセスの主要部分が実行されます。30~40 分間、進行状況バーがこのパーセンテージのままになることを想定しておいてください。同様に、進行状況バーは、35% と表示されたとき、および 45% と表示されたときに、最大約 15 分間、表示が変わらなくなります。アップデートが完了すると、HPE OneView リソースマネージャーが管理対象環境のビューを

更新します。これにかかる時間は、管理対象環境のサイズに比例して変わります。バージョン 5.2 では、全体的な更新時間は変更されていません。

インストール手順については、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) の HPE OneView インストールガイドを参照してください。

重要なアップグレードの注意

- ・ アップグレードする前に、アプライアンスに 8 つの仮想 CPU と 24 GB のメモリがあることを確認してください。
- ・ アプライアンスが最初に HPE OneView バージョン 1.1 以前でインストールされた場合、仮想ディスクのサイズを 160 GB から 275 GB に変更する必要があります。
- ・ HPE OneView バージョン 4.2 以降からアップデートする場合は、HPE OneView Update Readiness Checker の最新バージョンをダウンロード、インストール、および実行して、HPE OneView アプライアンスの正常性を評価します。

このチェッカーをダウンロードするには、<https://www.hpe.com/support/ov-urc> にアクセスしてください。

詳細については、HPE OneView 5.2 ユーザーガイドと、ダウンロードに含まれる README ファイルを参照してください。

アップデート後のアプライアンスのバックアップ

アプライアンスをアップデートした後に、バックアップファイルを作成してダウンロードします。

アプライアンスのファームウェアバージョンの書式は次のとおりです。

majornumber.minornumber.revisionnumber-buildnumber

バックアップファイルからリストアする場合、アプライアンスのファームウェアバージョンのメジャー番号とマイナー番号は、バックアップが作成されたときのものと同じである必要があります。リビジョン番号とビルド番号は一致しなくても構いません。

バックアップを実行する方法の詳細については、[HPE OneView 5.2 ユーザーガイド](#)を参照してください。

問題と推奨処置

ここでは、このリリースの問題と既知の制限事項について説明します。

データベースで使用できるにもかかわらず、ストレージシステムのインデックス関連付けが見つからない

問題

管理対象ストレージシステムの非管理対象ポートが削除されると、HPE OneView はストレージシステムとそれに関連するプールおよびボリュームの間にリンクを描画できません。ただし、REST 情報への影響はありません。

推奨処置

HPE OneView システムを再起動します。

ファームウェアがベースラインにアップデートされたにもかかわらず、HPE OneView サーバープロファイルにベースライン不整合の警告メッセージが表示される

問題

新しいファームウェアベースラインを使用したサーバープロファイルの作成または編集が正常に完了します。ただし、プロファイルは次のメッセージを含むアクティブな警告アラートを断続的に返します。

サーバーハードウェアに適用されているファームウェアベースラインが、サーバープロファイル内で選択されているファームウェアベースラインと不整合があります。

推奨処置

1. サーバープロファイルのアクティビティページにアクセスして、アラートをクリアします。
2. ファームウェアオプションのみを選択して、アクションメニューからプロファイルを再適用します。
アラートのクリアが完了すると、数分以内に再適用が完了します。プロファイルが緑色または OK ステータスに移行します。

未割り当てのサーバープロファイルを再割り当てするときに、サーバープロファイルへの変更がサーバーに適用されない場合がある

問題

サーバープロファイルが同じサーバーハードウェアに再度割り当てられると、サーバーハードウェアから割り当てられていない以前に割り当てられたサーバープロファイルは、アップデートされたプロファイル設定を適用できません。特に、サーバープロファイルのファームウェア、BIOS、またはローカルストレージへのアップデートは、サーバーハードウェアに適用されない場合があります。



推奨処置

サーバーにプロファイルを割り当てるときに、ファームウェア、BIOS、ローカルストレージの設定を編集します。

または

プロファイルを割り当てた後、必要に応じて個々の設定を選択して、サーバープロファイルを再適用します。

HPE Superdome Flex が IPv6 アドレスを使用して管理されている場合の制限

問題

HPE Remote Support は、HPE Superdome Flex が IPv6 アドレスを使用して管理されている場合はサポートされません。

推奨処置

IPv4 アドレスで HPE Superdome Flex を使用します。

HPE Superdome Flex サーバーのマップビューの制限

問題

HPE Superdome Flex サーバーの場合、ラックマネージャーとその関連サーバーは、マップビューにすべての論理リソースと物理リソースを表示しません。

推奨処置

推奨されるアクションはありません。

Internet Explorer のコンテキスト依存ヘルプの制限

問題

HPE OneView のコンテキスト依存ヘルプに、Internet Explorer のバナーと検索オプションが表示されません。

推奨処置

この制限を回避するには、Google Chrome を使用します。

カスタマイズされた帯域幅構成が論理インターコネクト GUI に表示されない

問題

HPE OneView 論理インターコネクト GUI は、インターコネクトが次のデフォルト帯域幅を持つ 24 個すべてのダウンリンクポートで構成されている場合、カスタマイズされた帯域幅構成を表示しません。

最小帯域幅構成 = 50% および 最大帯域幅 = 100%。

推奨処置

推奨されるアクションはありません。



ブラウザーに HPE OneView インターフェイスが表示されない

問題

ブラウザーのキャッシュがいっぱいであるため、ブラウザーに HPE OneView インターフェイスが表示されません。

推奨処置

1. ブラウザーのキャッシュをクリアして、再試行します。
2. ブラウザーを更新するか、再ロードします。

HPE OneView 経由でカスタム SPP を作成することで、ファームウェアのホットフィックスをアップデートできない

問題

HPE OneView 経由でカスタム SPP を作成することで、ファームウェアのホットフィックスをアップデートできません。

推奨処置

次のいずれかを実行して、カスタム SPP を作成できます。

- ・ HPE OneView 経由で SPP を作成する代わりに、Smart Update Manager (SUM) を使用します。
- ・ HPE OneView を使用して、.rpm ファイルのみを追加します。

ネットワークアダプターポートインベントリのスロット値が不明である

問題

ProLiant Gen10 ラックサーバーを備えた一部のネットワークアダプターのサーバーハードウェア > ポートビューと API portMap の場所に、ネットワークアダプターポートインベントリの不明なスロット値がある場合があります。値が見つからないのは、アダプターから HPE OneView に提供されていないデータが原因です。これはインベントリのみであるため、HPE OneView 機能への影響はありません。

推奨処置

対応する必要はありません。

HPE OneView で、論理エンクロージャーのファームウェアアップデート中に警告が表示される

問題

HPE OneView の論理エンクロージャーのファームウェアアップデートで、ネットワークの問題によりファイル無効の警告が返される場合があります。

推奨処置

1. 論理エンクロージャーのファームウェアアップデートの進捗を確認します。
2. アップデートが正常に完了している場合は、この警告を無視してください。

HPЕ OneView でサーバープロファイルを正常に削除できない

問題

HPЕ OneView は、複数のプロファイルの削除が同時に試行された場合、または HPЕ OneView アプリケーションの負荷が高い場合、サーバープロファイルを削除できません。

推奨処置

サーバープロファイルを削除するアクションを再度実行します。

注記: 削除アクションを完了できるまで、複数回実行する必要がある可能性があります。

サーバープロファイルから HPЕ Superdome Flex サーバーに BIOS 設定を適用する際に PXE サーバーアドレスが欠落している場合、URL からの起動オプションが無視される

問題

プリブートネットワーク IPv4 構成を取得するために DHCPv4 設定が有効になっており、IPv4 PXE サーバーアドレスが設定されていないかデフォルトに設定されている場合、ファームウェアバージョン 3.0.512 または 3.0.542 を使用して BIOS 設定を HPЕ Superdome Flex サーバーに適用すると、HPЕ OneView は URL1 からの起動および URL2 からの起動の各機能を無視します。

推奨処置

プリブートネットワーク IPv4 構成を取得するために DHCPv4 を有効になっている場合は、IPv4 PXE サーバーアドレスを設定します。

HPЕ OneView の接続のコンプライアンス確認が正しくない

問題

サーバープロファイルをサーバープロファイルテンプレートと一致させる自動修正が失敗し、サーバープロファイルでポート設定が変更されたときにコンプライアンスの問題が発生します。

推奨処置

プロファイルのポート設定を手動でアップデートして、テンプレートに一致させます。

HPЕ iLO の Active Health System が、HPЕ OneView によって管理されるサーバーハードウェアの変更を記録できない

問題

Remote Support を使用すると、通常スケジュールされている AHS ログの収集が完了せず、次のメッセージが表示される場合があります。

操作は予定よりも時間がかかっています。

推奨処置

iLO Active Health の収集を手動で再実行します。

iLO の CNSA モードの制限事項

管理対象サーバーの iLO が Commercial National Security Algorithm (CNSA) モード、またはスイート B モードの場合、HPE OneView コンソールから iLO ユーザーインターフェイスまたはコンソールにアクセスすることはできません。

英語以外のディレクトリサーバーのグループ名が一部のブラウザーで表示されない

問題

ディレクトリサーバーが、中国語や日本語など英語以外のグループ名で構成されているサーバーであり、Microsoft Internet Explorer 11、Firefox 57 以降、または Chrome 64 以降のブラウザーが使用されている場合は、中国語または日本語のグループ名を選択した後に、グループの追加操作を行っても構成済みのグループがリストに表示されません。このことは、Active Directory、または Open LDAP ディレクトリにも当てはまります。

推奨処置

Microsoft Edge を使用します。

iLO 5 の HPE OneView SNMP 構成に関する問題

iLO 5 が管理対象サーバーでリセットされたときに、HPE OneView の管理対象サーバーハードウェアが即時に更新された場合、SNMP の構成に整合性がなく、iLO 5 からの SNMP トラップが HPE OneView で受信されません。

推奨処置

iLO が応答を開始した後に約 1 分待ってから、HPE OneView でサーバーを再度更新してください。これにより、iLO の SNMP 設定がリストアされ、HPE OneView がサーバーの監視と管理を継続できるようになります。

HPE OneView の Web サーバー証明書をアップデートできない

問題

HPE OneView へのアップデートが、以下の場合に成功しないことがあります。

- ・ アプライアンスの Web サーバー証明書の有効期限が切れている。
- ・ アプライアンスの Web サーバー証明書が 24 時間以内に期限切れになる。

次のエラーメッセージが表示されます。

エラーアプライアンスの Web サーバー証明書の有効期限が切れているか、古い証明書に戻されています。アップグレードを続行できません。新しいアプライアンスの自己署名証明書を再生成するか、新しい CA 署名アプライアンス証明書を再インポートしてください。その後、アップデートを再度実行してください。

推奨処置

1. アプライアンスの証明書が有効であることを確認します。以下の項目は、無効な証明書を示していません。
 - ・ 証明書の有効期限が切れている場合、または証明書が 24 時間以内に期限切れになる場合。
 - ・ 証明書が SHA1 証明書の場合。
 - ・ 証明書で以前その証明書に対して構成された組織情報が失われている場合。アプライアンス証明書が期限切れになり、アップデートされた証明書をインストールする前にアプライアンスを再起動すると、一部の情報が失われる可能性があります。
 - ・ 以前は CA の署名済み証明書をインストールしていたものの、現在のアプライアンス証明書がインストール済みの証明書ではない場合。アプライアンス証明書が期限切れになり、アップデートされた証明書をインストールする前にアプライアンスを再起動すると、正しくない証明書が表示されることがあります。

このような場合は、アプライアンスの自己署名証明書を再生成するか、新しい CA 署名済み証明書をインポートします。
2. その後、アップデートを再度実行します。

スキャンツールによって脆弱な SSH 暗号の問題が報告される

問題

Nessus などのセキュリティ脆弱性スキャンツールによって、HPE OneView の SSH サーバーが、攻撃者による暗号文からプレーンテキストメッセージへの復元が可能になる暗号ブロック連鎖 (CBC) 暗号化をサポートしていると報告されます。

推奨処置

現時点では、対処は不要です。

スキャンツールからの間違った報告です。この報告は、2008 年で検出された Secure Shell プロトコルの問題を説明する CVE-2008-5161 への参照です。ただし、この SSH プロトコルの脆弱性は HPE OneView に先行して、2009 年に修正されました。すべての HPE OneView のバージョンには、この問題に対して脆弱ではない SSH サーバーが用意されています。

CVE-2008-5161 の詳細については、<https://community.arubanetworks.com/t5/Wireless-Access/SSH-and-AES-CBC/td-p/248919> を参照してください。

ハイパーバイザークラスタープロファイルの制限事項

IP プールからのネットワークが、ハイパーバイザークラスタープロファイルの DHCP IP 割り当て用の特殊用途のネットワークとともに選択および構成された場合、DHCP 設定が無視され、IP プールによって、選択したネットワークに IP が割り当てられます。

ESXi FCoE Boot from SAN

問題

ESXi 6.0 レガシードライバーを使用して Boot from SAN を実行するときに、ブート対象のサーバーを介した VLAN が削除、リストア、または交換された場合、ESXi サーバーにより SAN へのアクセスが削除されます。

推奨処置

ESXi サーバーの電源をオンにしてブートするときにアップリンクセットに VLAN をリストアして、SAN へのアクセスをリストアします。



HPE OneView 5.2 および 5.20.01 に関する注意事項

HPE OneView VM アプライアンスの追加のネットワークインターフェースの構成

HPE OneView 5.2 以降では、追加のネットワークで VM アプライアンスを構成できます。追加のネットワークにより、管理 LAN（サーバー、管理対象ノード）とユーザー LAN（ユーザー）を分離するデュアル NIC 構成が可能になります。

追加のネットワークインターフェースを構成すると、管理対象機器へのネットワーク接続を許可しないで HPE OneView にアクセスできます。このセットアップでは、2 番目のネットワークインターフェースに接続されている HPE OneView クライアントと HPE OneView アプライアンスの間にルーターがある場合、静的ルートが必要になる場合があります。静的ルートは、ネットワークインターフェースごとに追加できます。

HPE OneView の 2 番目の NIC の構成と静的ルートの構成はいずれも、REST API を介してのみサポートされます。

この機能は、管理環境を構成する機能を提供しますが、ネットワークアクセスを介してこの環境に直接アクセスすることはできません。

管理対象デバイスは、2 番目のネットワークインターフェースではなく、デフォルトのネットワークインターフェース（eth0）にある必要があります。デュアルスタックと IPv6 専用アドレスは、両方の NIC で構成できます。

- ・ 次の機能は、両方のネットワークインターフェースで使用できます。
 - ブラウザトラフィック
 - 電子メールイベント
 - 外部ファームウェアレポジトリ
 - Maintenance Console
 - リモートバックアップサーバー
 - Remote Support
 - SNMP トラップと SCMB メッセージ

Google アナリティクスの使用

HPE OneView 4.20 から、Google アナリティクスとの統合機能が導入されました。匿名ユーザーインターフェースの使用状況データは、ユーザーのブラウザから Google アナリティクスに送信されます。これにより、HPE は製品の使用方法と改善方法を把握できます。Hewlett Packard Enterprise は、個人情報を収集しません。

HPE OneView エンドユーザ使用許諾契約書（EULA）に同意するときに、HPE OneView の Google アナリティクスの使用を選択します。

EULA には、Hewlett Packard Enterprise のプライバシーポリシー <https://www.hpe.com/us/en/legal/privacy.html> およびデータ収集へのリンク（<https://www.hpe.com/us/en/legal/privacy.html#datacollection>）が含まれています。このリンクでは、Google アナリティクスのトラッキングの選択を解除する方法も説明しています。

HPE OneView 管理者は、**設定 > セキュリティ > アクションメニュー > 製品の改善メニュー**を使用して Google アナリティクスのトラッキングの選択を解除することもできます。

追加情報：

- ・ 収集される情報は、標準の Google アナリティクスに、使用されている HPE OneView のバージョンのみが追加されたものです。
- ・ HPE OneView Global Dashboard は、リリース 1.5 からの Google アナリティクスも統合しています。

サポートされる iSCSI ブート構成

次のパラメーターがサポートされています。

- ・ IPv4
- ・ 静的 IP アドレスと DHCP 割当て済み IP アドレス
- ・ HW-iSCSI (iSCSI オフロード、ハードウェア支援によるイニシエーター)

iLO 4 デバイスの管理

iLO 4 を使用するデバイスを管理する場合、HPE OneView 4.0 以降は、iLO 4 ファームウェアバージョン 2.55 以降で最適に動作します。お客様のデバイスに iLO 4 ファームウェアバージョン 2.3x をお持ちの場合は、Hewlett Packard Enterprise は、お持ちの iLO 4 ファームウェアをバージョン 2.55 以降にアップデートしてから HPE OneView 3.0 以降を用いたデバイス管理を開始されることを強くお勧めします。

アダプターポートの設定

レガシー BIOS モードでサーバーブレードを使用した SAN (FC または iSCSI) から起動するサーバープロファイル接続を新規作成する場合は、アダプターのポート 1 または両方のポート (ポート 1、ポート 2) が設定されている必要があります。ポート 2 のみ設定を行った場合、誤ったデバイス (通常はローカルディスク) からサーバーが起動される原因となる場合があります。この動作は、Emulex アダプターモデル 554M、650M、554FLB、556FLB、および 650FLB に影響を与えます。

システムボードの交換

サーバーがメンテナンスのために取り外された際、ネットワークセキュリティの検証が行われていない場合は、HPE OneView (VC のように) の電源はオンになりません。新しいブレードが取り付けられている場合、HPE OneView はブレード/OA をチェックし、同じサーバー (UUID を使用) および構成が使用されているかを確認します。元のサーバーと新しくインストールしたサーバーの UUID が一致する場合は、サーバーの電源が自動的にオンになります。ただし、元のサーバーと新しくインストールしたサーバーの UUID が一致しない場合は、サーバープロファイルに新しいサーバーが認識されないことを示すエラーが表示されます。同じハードウェアタイプのサーバーがインストールされているが、HPE OneView によって認識されていない場合、再適用後にサーバーを再インストールします。新しいサーバーが、元のサーバーと一致しない場合は、サーバープロファイルを削除して正しく一致するサーバーをインストールします。

システムボードを交換する場合は、サーバーの再起動とサーバープロファイルを解除するために、UEFI システムユーティリティを介して UUID を手動で再プログラムする必要があります。サーバーの再起動後、新しいサーバーを受け入れるように UUID を再プログラムすることができます。新しいサーバーの POST サイクルが完了すると、サーバープロファイルは新しくインストールしたサーバーに再割り当てされます。

MD5 デジタル署名を使用した管理対象デバイス証明書の非推奨通知

iLO 2 管理プロセッサを搭載したサーバーなどの古いデバイスでは、MD5 ハッシュアルゴリズムに基づくデジタル署名付きのトランスポート層セキュリティ (TLS) 証明書を使用できます。このような証明書は深刻なセキュリティリスクをもたらします。MD5 アルゴリズムは、モデム証明書のデジタル署名用の SHA-256 などのセキュアハッシュアルゴリズム (SHA) スイートに置き換えられています。HPE OneView の将来のバージョンでは、これらのレガシー証明書を使用するデバイスはサポートされません。

HPE OneView /rest/certificates の REST API を使用すると、MD5 デジタル署名で証明書を使用しているデバイスを特定できます。<https://hewlettpackard.github.io/POSH-HPOneView/>から入手できる HPE OneView PowerShell インターフェイスの POSH-HPOneView を使用することができます。

不要なアラートの削減

設定 > 通知 > アラートメールフィルターを追加のアラート基準のデフォルトがすべてのアラートからすべてのクリティカルまたは警告アラートに変更されました。

すべてのアラートの通知を受信するには、選択されているアラート基準が**すべてのアラート**であることを確認してください。

iLO 暗号化モードを高セキュリティに変更するには、iLO 認証情報を使用して iSUT を設定する必要があります

iLO 暗号化モードを実稼働から FIPS または CNSA に変更したときは、iSUT 2.4.0.0 以降がインストールされ、iLO 認証情報を使用して構成されていることを確認してください。この手順は、HPE OneView でプロファイルを適用してファームウェアをアップデートするための前提条件です。HPE OneView を使用してファームウェアをアップデートする前に、iSUT の以前のすべてのインストール環境を iLO 認証情報を使用して構成する必要があります。

MD5 証明書アラートの処理

iLO 2 管理プロセッサを搭載したサーバーなどの古いデバイスでは、MD5 ハッシュアルゴリズムに基づくデジタル署名付きのトランスポート層セキュリティ (TLS) 証明書を使用できます。このような証明書は深刻なセキュリティリスクをもたらします。MD5 アルゴリズムは、最新の証明書のデジタル署名用の SHA-256 などのセキュアハッシュアルゴリズムに置き換えられています。

MD5 デジタル署名付きの証明書の使用は、HPE OneView 4.1 から非推奨になりました。HPE OneView 4.2 では、MD5 証明書について警告アラートが送信されます。将来の HPE OneView リリースでは、このような MD5 証明書はブロックされ、MD5 証明書を使用する管理対象デバイスとの通信は失敗します。

HPE OneView 4.2 は、トラストストア内の証明書のステータスを定期的にチェックします。MD5 ハッシュアルゴリズムを使用する証明書が見つかった場合、次のアラートが表示されます。

- ・ **メッセージ** : エイリアス名<エイリアス名>を持つ証明書が、MD5 ハッシュアルゴリズムを持つ安全でないデジタル署名を使用しています。
- ・ **解決策** : MD5 デジタル署名を使用した証明書は安全ではなく、非推奨です。将来の HPE OneView リリースでサポートされなくなります。これがデバイス証明書の場合、強力なデジタル署名で証明書をアップデートしてください。これが CA ルート証明書または中間証明書である場合は、公開キー基盤 (PKI) 管理者と協力して証明書をアップデートしてください。

注記: 証明書をアップデートするには、管理対象デバイスのファームウェアをアップデートする必要があります。

これらの MD5 証明書は、**設定 > 証明書の管理**画面で HPE OneView で非推奨とマーキングされます。

iLO 2 では、すべての HPE OneView iLO 2 ファームウェアバージョンが SHA ベースの証明書をサポートしています。ただし、iLO ファームウェアのアップグレードでは、デバイスの既存の証明書は変更されません。iLO の工場出荷時のリセット操作と iLO のホスト名を変更する場合のみ、iLO の自己署名証明書を再生成できます。同様に、認証機関が発行した証明書にも MD5 デジタル署名が含まれている可能性があり、アップデートされた証明書を取得するには新しい iLO 証明書の署名要求が必要です。詳しくは、iLO ユーザーガイドを参照してください。

HPE OneView /rest/certificates の REST API を使用すると、MD5 デジタル署名で証明書を使用しているデバイスを特定できます。HPE OneView PowerShell インターフェイス、POSH-HPOneView は <https://hewlettpackard.github.io/POSH-HPOneView> から入手して、使用できます。

以下に例を示します。

- ・ `Connect-HPovMgmt -Hostname <your appliance> -Username <OneView username> [-AuthLoginDomain <AD or LDAP domain>]`
- ・ `$certs = Send-HPovRequest "/rest/certificates"`
- ・ `$md5certs = @()`

- `$certs.members | foreach-object {$md5certs += New-Object PSObject -property@{commonName=$_.certDetails.commonName; aliasName=$_.aliasName; signature=$_.certDetails.signatureAlgorithm }}`
- `$md5certs | ? {$_.signature -match "MD5" } | format-table`

注記: この方法では、HPE OneView トラストストアに存在する証明書のみを識別します。証明書には、認証機関のルート証明書と中間証明書、およびデバイスの自己署名証明書が含まれます。CA ルートおよび中間証明書の場合、デバイスのリーフ証明書は HPE OneView トラストストアに存在しません。



HPE OneView のドキュメントおよびトラブルシューティングの資料

Hewlett Packard Enterprise Information Library は、タスクベースのレポジトリです。インストール手順、ユーザーガイド、メンテナンスとサービスガイド、ベストプラクティス、およびその他のリソースへのリンクが含まれています。この Web サイトを使用して、次のような最新のドキュメントを入手してください。

- ・ HPE OneView のテクノロジーについて
- ・ HPE OneView アプライアンスのインストールとケーブル接続
- ・ HPE OneView コンポーネントのアップデート
- ・ HPE OneView の使用と管理
- ・ HPE OneView のトラブルシューティング

HPE OneView ユーザーガイド

HPE OneView ユーザーガイドは、**Hewlett Packard Enterprise Information Library** から入手できます。リソース機能、プランニングタスク、クイックスタートタスクの構成、グラフィカルユーザーインターフェイスのナビゲーションツール、および HPE OneView のサポートと参照情報が示されています。

HPE OneView サポートマトリックス

HPE OneView サポートマトリックスは、**Hewlett Packard Enterprise Information Library** から入手できます。HPE OneView のソフトウェアおよびファームウェアの最新の要件、サポートされるハードウェア、および構成の上限を維持します。

HPE OneView のトラブルシューティングガイド

HPE OneView トラブルシューティングガイドは、**Hewlett Packard Enterprise Information Library** から入手できます。HPE OneView ハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントの両方に対し、一般的な問題の解決のための情報、障害の分離と識別のための手順、問題の解決、および保守を提供します。

HPE OneView ヘルプと HPE OneView API リファレンス

HPE OneView ヘルプおよび HPE OneView API リファレンスは、HPE OneView のユーザーインターフェイスで利用できる、アクセスしやすい組み込み型のオンラインヘルプです。これらのヘルプファイルには、HPE OneView 内の一般的な問題、および問題のトラブルシューティング手順と例への「詳細情報」リンクが含まれています。

ヘルプファイルは、**Hewlett Packard Enterprise Information Library** から入手可能です。



Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<https://www.hpe.com/info/enterprise/docs>

Hewlett Packard Enterprise Worldwide

<https://www.hpe.com/assistance>

サブスクリプションサービス/サポートのアラート

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

製品の Web サイト

HPE OneView のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/oneview/docs>

HPE 3PAR StoreServ ストレージ

<https://www.hpe.com/info/storage>

HPE BladeSystem エンクロージャー

<https://www.hpe.com/info/blades-ja>

HPE Integrated Lights-Out (iLO)

<https://www.hpe.com/jp/servers/ilo>

HPE Integrity Superdome X

<https://www.hpe.com/info/superdome>

HPE ProLiant サーバーハードウェア

- ・ 一般情報 : <https://www.hpe.com/info/servers-ja>
- ・ BL シリーズサーバーブレード : <https://www.hpe.com/info/blades-ja>
- ・ DL シリーズラックマウント型サーバー : <https://www.hpe.com/jp/ja/servers/proliant-dl-servers.html>

HPE Superdome Flex サーバー

<https://www.hpe.com/info/superdome>

Insight Remote のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

HPE Primera のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/Primera600-docs>

HPE Insight Control のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/insightcontrol/docs>

HPE OneView Global Dashboard のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/ovgd-docs>



Smart Update (SUM/SPP/iSUT/iSUT) のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/sut-docs>

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) の Storage compatibility matrix

<https://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート

<https://www.hpe.com/storage/whitepapers>



HPE OneView Remote Technician

HPE OneView Remote Technician を使用すると、問題のトラブルシューティングおよび解決のサポートが迅速かつ容易になります。招待により、認証された Hewlett Packard Enterprise サポート技術者が、問題のトラブルシューティングと診断に安全な TLS 接続を通じて HPE OneView アプライアンスにアクセスします。FTP サイトを必要としないログの直接ダウンロードなど、信頼されたサポート技術者が問題を診断する際に現場にいる必要がありません。

HPE OneView Remote Technician は、追加のアプリケーションなしで HPE OneView 4.1 以降に組み込まれています。

詳細情報

[HPE OneView ヘルプ](#)の「[HPE OneView アプライアンスへのリモートアクセスサービスの構成](#)」。



サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/info/assistance>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ
- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<https://www.hpe.com/support/downloads>

My HPE Software Center

<https://www.hpe.com/software/hpesoftwarecenter>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- ・ お客様の資格を表示、アップデート、または契約や保証をお客様のプロファイルにリンクするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページに移動します。



- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

リモートサポート（HPE 通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE データセンターケアサービス

<http://www.hpe.com/services/datacentercare>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンストサービス：サポートされている製品のリスト

<https://www.hpe.com/jp/ja/services/proactive-care-central.html>

保証情報

ご使用の製品の保証情報を確認するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiant と IA-32 サーバーおよびオプション

<https://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE Enterprise および Cloudline サーバー

<https://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<https://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<https://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<https://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。このメールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

